



動き出したNature Positive Economy by 2030

ネイチャー・ポジティブな社会を 実現するために

2022年 11月25日

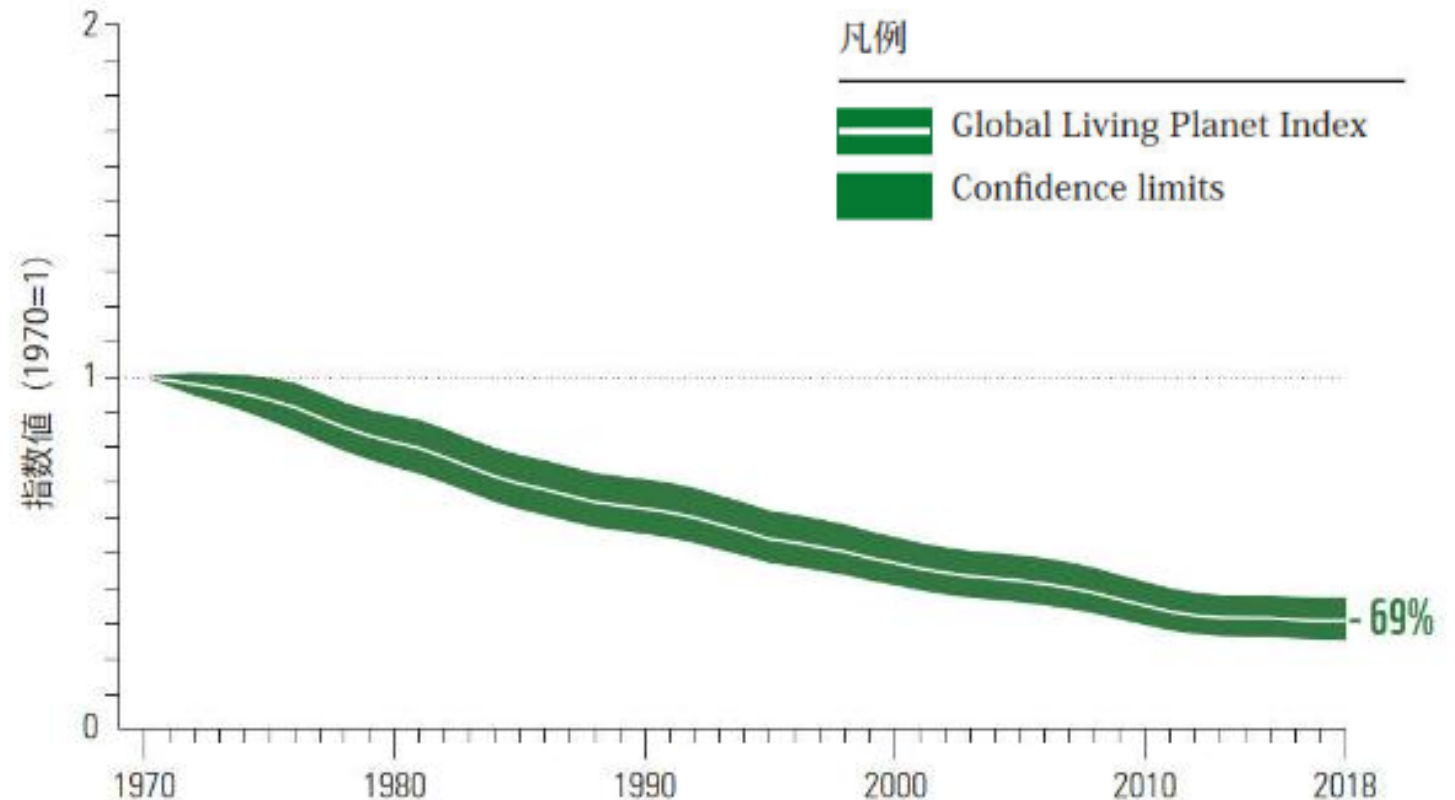
WWFジャパン 生物多様性グループ
松田英美子

「生きている地球指数」Living Planet Index : LPI

1970年から2018年の間、野生生物の個体群は平均69%減少



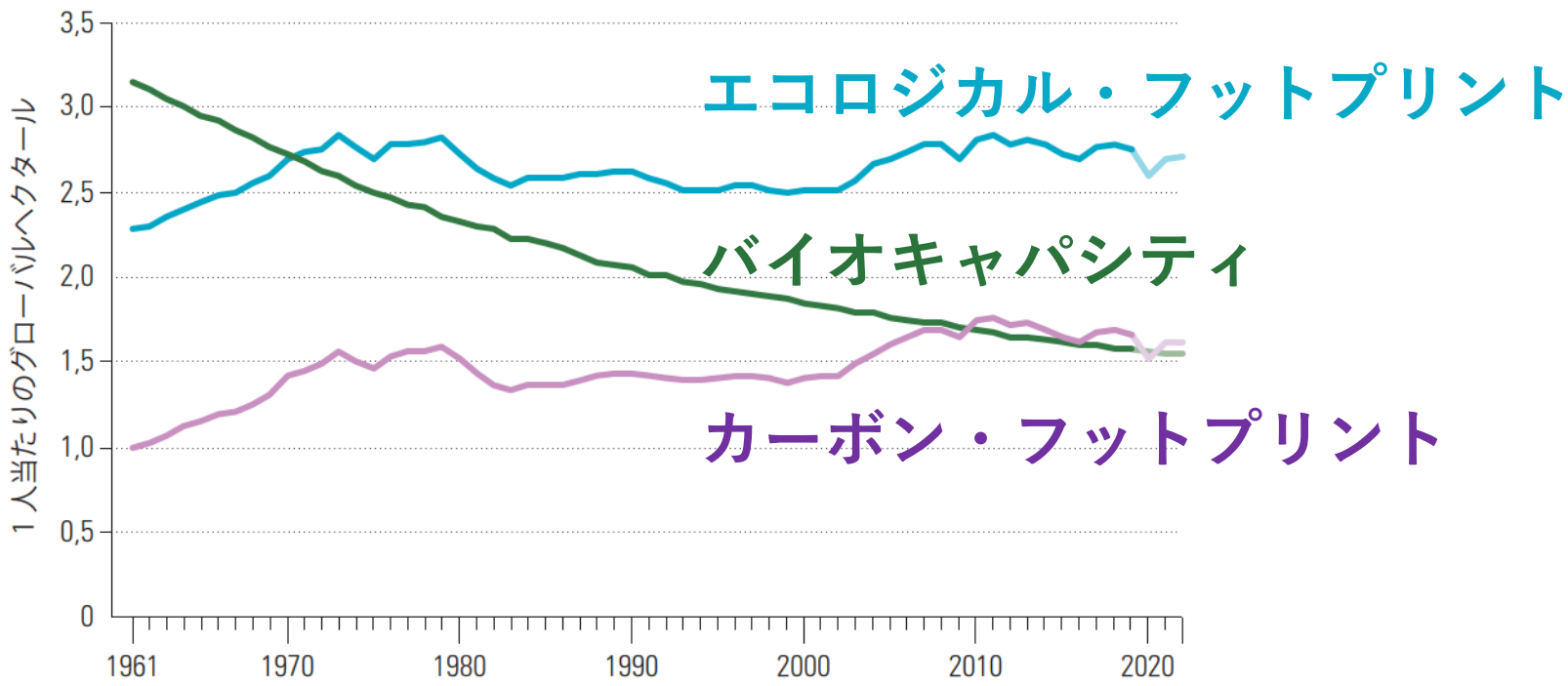
- 生きている地球レポート2022が10月13日に世界同時公開
- LPIは世界の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類の個体群の変化を追跡し、生物多様性の豊かさを測定
- 1970年から2018年までにLPIは69%減少



地球のバイオキャパシティの限界とエコロジカルフットプリント



- 地球の再生能力（バイオキャパシティ）を超えて人は生物資源を利用している
- 2022年の調査では、約1.75個分の地球資源を一年に消費している



自然に対する日本人の需要に答えるために、何個の日本が必要になるでしょうか？

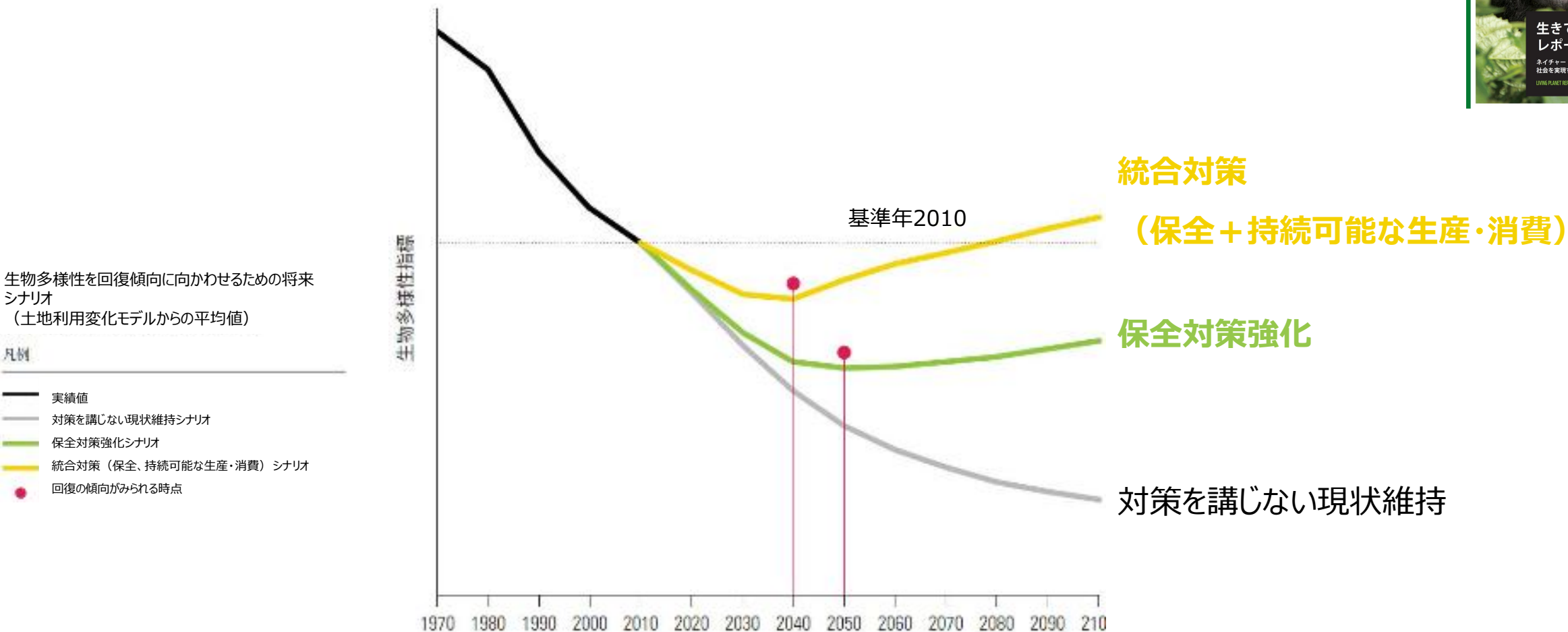
🇯🇵 日本	7.8	
🇮🇹 イタリア	5.2	
🇨🇭 スイス	4.4	
🇨🇳 中国	4.1	
🇬🇧 イギリス	4.1	
🇵🇹 ポルトガル	3.5	
🇩🇪 ドイツ	3.1	
🇪🇸 スペイン	2.9	
🇮🇳 インド	2.7	
🇺🇸 アメリカ	2.4	
🇫🇷 フランス	1.9	

🌍 世界 1.75

出典: National Footprint and Biocapacity Accounts 2022
他の国の情報は次のリンクをご参照ください。 overshootday.org/how-many-countries

問題の要因に真摯に対処し、変革を起こすこと

生物多様性を回復傾向に向かわせるためには、保全対策に加えて、持続可能な生産と消費を含む対策をとる必要がある。





WWFが目指す生物多様性条約交渉での 目標設定



生物多様性の損失を食い止め、

2030年までにネイチャー・ポジティブを実現



生息地の保全

2030年までに陸・淡水・海洋の30%を保全し、劣化した生態系を回復させる。



生産と消費

2030年までに自然破壊を引き起こすすべてのセクターにおいて、生産と消費のフットプリントを半減させる



確固たる実施策

強力で効果的な実施メカニズムの確立（時間軸をおき、行動の段階的強化）



資金

2030年までに、自然環境に配慮した資金の流れを整え、有害な補助金をすべて廃止するための措置とともに、資金の大幅に増加



自然を基盤とした 解決策

人、自然、気候に恩恵をもたらすために、生態系を考慮しさらに自然を基盤とした解決策を含める

生物多様性とビジネス (アクセントゥア-WWFジャパン共同研究)



背景：

- 生物多様性の損失が顕著となっている
- 国際的な基準が未だはっきりと定まらず、形成途上にある現段階では、先進的な企業であってもどのように具体的な施策を事業活動に反映させるか模索中
- アクセンチュア社会貢献活動（コーポレート・シチズンシップ）の一環でWWFジャパンとの共同研究プロジェクトとして実施。

<https://www.accenture.com/jp-ja/about/corporate-citizenship/biodiversity>



調査レポート

[生物多様性とビジネス -危機的現状とビジネスの可能性- Executive Summary\[PDF\]](#)
[生物多様性とビジネス -危機的現状とビジネスの可能性- 完全版\[PDF\]](#)

Contributors として
WWFジャパン 参画

[生物多様性とビジネス -危機的現状とビジネスの可能性- TNFD LEAPプロセス実施ガイダンス\[PDF\]](#)

生物多様性への取り組みの必要性と企業がとるべき構え

生物多様性は危機的な状況にあり、それに依存する産業に甚大な影響を及ぼす可能性がある

- 世界の総GDPの半分以上の44兆ドルの経済価値が生態系サービスに依存している
- しかし、生態系サービスの過剰利用が、生物多様性の減少の要因となっている
- 世界の陸地の75%が著しく改変され、海洋の66%は累積的な影響下にあり、湿地の85%・森林の32%が消失し、また、哺乳類/鳥類/両生類/爬虫類/魚類の個体群が平均68%減少した

危機的状況に鑑みて、各国の生物多様性関連の規制や投資家対応は厳格化の流れにある

- 産業界は生態系サービスを直接的に利用する主体の一つであり、金融システムや消費パターン、政策に影響を及ぼし得る重要な存在である
- 日本を含む196か国・地域が締結する「生物多様性条約」の国際目標に、企業の生物多様性への悪影響を半減するよう求める項目が盛り込まれる見込みである
- 環境団体の抗議活動により、株価や時価総額が著しく棄損した事例もある

企業は生物多様性に大きな影響を与える存在として、早急な取り組みが求められている

- 企業は①自社影響の評価、②調達方針策定、③調達改善をおこなったうえで、自社事業の環境負荷軽減に留まらず、行政/社会にも働きかける事が求められる
- 企業は保全責務を全うしたうえで、利益追求が保全と両立される取り組みを目指すべきである

生物多様性保全の取り組みは難解だが、10兆ドルの事業機会が生まれるという試算もあり、様々な産業の企業にとって大きな機会になり得る

日本企業による生物多様性と事業との関わりに関する理解は限定的であり、保全と収益を両立させるには、事業と生物多様性の広く複雑な依存・影響を紐解き、事業戦略に落とし込むことが求められる

- まずは、1) 事業の生物多様性への依存状況、2) 事業活動により生物多様性に与える影響を把握し、それを基に、3) 生物多様性が損失または回復することによる事業への正と負の影響を把握し、4) 事業戦略へ反映することが求められる
- しかしながら、WWFジャパンとアクセンチュアが2022年1月に実施した日本企業へのヒアリング調査回答企業のうち、1)と2)の双方を把握できている企業は2割に留まった
- また、上記企業も含め、対象は一部原材料に留まっており、科学的根拠に基づき、生物多様性棄損リスクが高い原料全般を対象に把握し、事業戦略への反映にまで踏み込んでいる企業は皆無であった
- 取り組みが限定的な要因として、そもそも取り組むべきビジネス的な意義がないという声や取り組み方が分からないという声が多く聞かれた

本書では上記課題に対応すべく、企業における生物多様性推進に向けた取り組み方の一例として、国際的に検討が進むフレームワーク「TNFD」に基づく事業影響評価方法を掲載した

企業が果たすべき責任と事業機会の関係

生物多様性に関する取り組みを事業機会に繋げていくことが重要である。一方で、果たすべき責任への取り組みが不十分な状態で、事業機会としての新しいソリューション・技術開発に取り組んだとしても、生物多様性減少への対策とはならない。また、責任範囲の取り組みが不十分である事に加え、科学的な立証が不十分な技術・ソリューションが強調されている場合、グリーンウォッシュとしての批判を招き、大きなレピュテーション・リスクとなりうる

取り組みの性質

生物多様性保全

事業

企業責任としての取り組み例

- 負の影響の把握・評価
- トレーサビリティの確保
- 調達方針の策定と実施
- ランドスケープ／
シースケープ・ベースでの生態系保全

収益につながらないが企業責任として取り組む保全活動

生物多様性保全と
事業収益を両立する
取り組み

生物多様性保全につながらない
営利活動としての事業

望ましい入り方

しっかりと企業責任を果たした上で、
生物多様性保全と収益を両立する事業
に取り組む

グリーンウォッシュと批判を されかねない入り方

企業責任を果たさないままに、
事業機会として生物多様性保全ソリューションや
技術開発のみに取り組む

企業が果たすべき責任 - エリアを主眼においた取り組み

生態系は、人為的な境界線（自社のサプライチェーンや事業所範囲）とは必ずしも一致しない。調達方針の策定から、さらに取り組み範囲を広げなければ対処できない場合があるため、企業は下記観点から保全取り組みの適切な範囲を検討すべき

生態系およびエリアを意識したアプローチ

ランドスケープ/ シースケープ アプローチ¹⁸

事業活動地が属する生態系および人間社会全体（歴史的・経済的・社会文化的な背景を含む）を保全すべきランドスケープ/シースケープとしてとらえて、包括的な保全対策を打つこと

ウォーター スチュワードシップ¹⁹

自社のサプライチェーンに含まれる工場周辺や自社の水使用量といった狭義での水リスクだけでなく、上流から下流まで含めた「流域」全般を保全対象と、とらえ生態系全般の保全取り組みを行うこと

本アプローチに必要な要素

- 中長期的な取り組み計画
- 検討したエリアに属するステークホルダーとの協働

【ステークホルダー例】

- 企業
- 地方政府・中央政府
- NGO・NPO
- 地域住民
- 先住民

Nature Positive Economy Roadmap



G7サミット 2030年 自然協約 (2021)

“our world must not only become net zero, but also nature positive, for the benefit of both people and the planet.”

(私たちの世界は、人と地球の両方の利益のために、ネット・ゼロになるだけでなく、ネイチャー・プラスにならないといけない)

IPCCとIPBESの合同ワークショップ報告書 (2021)

“the world will fail unless climate and nature crises are tackled together”

(気候の危機と自然の危機を一緒に取り組まなければ、世界は破綻する)

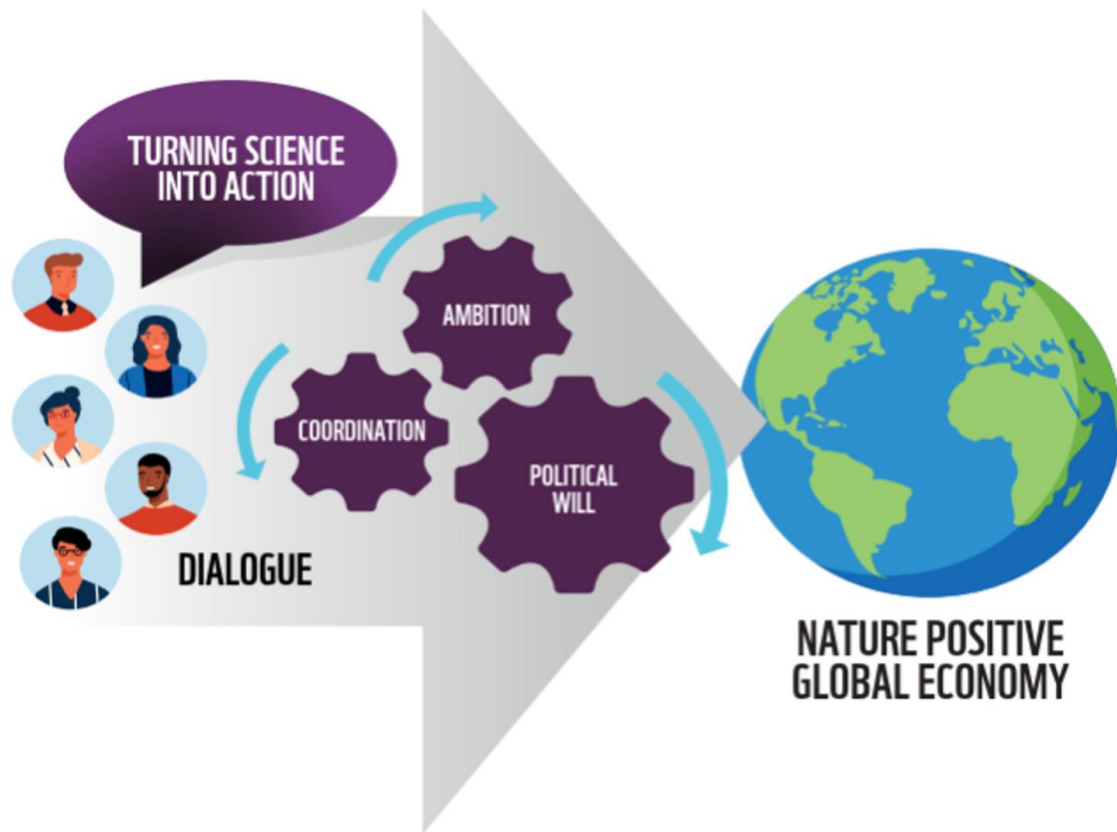


公平で、ネット・ゼロ、ネイチャー・ポジティブな結果を促進するために、国際的なメカニズムを整えていく必要がある。

ネイチャー・ポジティブ経済ロードマップ（案）



包括的で公平、かつ政治的にも裏付けされたプロセスを設定



- ネイチャー・ポジティブ経済とはどのようなものなのか、明確な「ビジョン」があること。
- ネイチャー・ポジティブ経済を推進するために必要な国際的なシステム構造の改革。
- これらの改革をどのように実施するかについての戦略的計画

ネイチャー・ポジティブ経済ロードマップ（案）



自然を積極的に取り入れるために必要な経済的・財政的手段やインセンティブをどのように実行に移すのが最善なのか、明確さやコミットメントに欠けている。

- 官民を問わず世界的協調の下で推進するために必要な包括的な枠組
- 国内、管轄外の地域、越境生態系・資産（河川など）の効果的かつ公平な保護・回復を確保する制度
- 移行を支援するための世界貿易・金融システムの運用方法の変更などの多国間行動。
- 国際的なバリュー／サプライチェーンを通じて、持続可能な生産と消費のパターンをグローバルに推進する政策と制度的メカニズム。
- グローバル資本市場、その他の貿易協定といった自然への投資のための市場を通じて、国内レベルで自然に配慮した経済政策を導入するためのマクロ経済的インセンティブ。
- 持続可能な意思決定に対する制度的障壁（GDPの過度の重視など）に対する、多国間の情報開示と行動の強化。



together possible™



Working to sustain the natural world for the benefit of people and wildlife.

together possible panda.org

WWF® and ©1986 Panda Symbol are owned by WWF. All rights reserved.
WWF, 28 rue Mauverney, 1196 Gland, Switzerland. Tel. +41 22 364 9111
CH-550.0.128.920-7



(ご参考)
COP15サイドイベント情報

WWF関連サイドイベント (CBD COP15)

オフィシャルサイドイベント
<https://www.cbd.int/side-events/>



Side Event Title	Main Applicant	Sponsors	Date (Time)
Investment in biodiversity conservation and sustainable use by the African Development Bank and WWF in support of the implementation of the post-2020 Global Biodiversity Framework.	AfDB	WWF	12/07 (1315)
Achieving Target 3: Technical support for implementing the 30x30 target	UK	Costa Rica, France, WCPA, TNC, WWF, IIFB, WCS	12/10 (1315)
Biodiversity and Economy: What future for this duo in the post-2020 global framework?	OREE	GPBB, EF, B4N, UNESCO MABR, WWF	12.13 (1315)
Protecting Vietnam's Natural Heritage	Vietnam	WWF	12/13 (1315)
I's on the Ocean: Integration, Implementation, Impact	WWF	WEF, CBD, FOA	12.16 (1815)
Nature Positive Business model 2050	MoEFCC	CII (India), WWF India, GIZ, UNDP, IBBI, GPBB, B4N	12/17 (1315)
Inclusive and Effective Implementation of Draft Target 3: Lessons Learnt from Past Country Experiences	GEF	CBD, WWF, WCPA, IIFB	12/07 (1315)
Small-Scale Fisheries and Aquaculture: Rich Reservoirs of Biodiversity and Nutrition to Preserve, Cultivate and Sustainably Consume	Iceland	Canada, WWF	12/07 (1315)
Connecting the crises: Integrating ecological connectivity in the Post-2020 GBF to combat biodiversity loss, climate change, land degradation and the next pandemic	CMS	UNCCD, WWF, CLLC, Zambia, CBDGDF, PCA, GCR	12/08 (1315)
How the Global Species Action Plan (GSAP) supports the implementation of the post-2020 Global Biodiversity Framework to deliver species conservation outcomes.	Republic of Korea	IUCN, France, Türkiye, Birdlife, WWF	12/08 (1815)
How a human rights-based approach can deliver a truly transformative and just post-2020 Global Biodiversity Framework	Swedbio	WWF, UNEP, OCHCR, GiZ Birdlife, GYBN, IIED, CBD	12/08 (1815)
How Business can scale up a Nature Positive economy in Brazil	CEBDS	CNI, WWF, LIFE Institute	12/15 (1315)
★ Halving the global footprint by 2030: A Leaders dialogue sustainable production and consumption and circular economy	WWF	Colombia, Finland, Kenya, Solomon Islands	12/16 (1315)
Nature-Positive Infrastructure: Connecting Communities – Safeguarding the Planet	WWF, ADB, AfDB, UNEP, 等		12/08 (1315)
★ Aligning the Financial Flows for an Ecological Civilization – how to speed up the momentum	WWF, Malaysia		12/16 (1815)

ネイチャー・ポジティブ パビリオン (CBD COP15)



ネイチャー・ポジティブ パビリオン Livestream あり

Aligning financial flows with nature

12月12日 13時半～14時半

Solutions - how we are already activating finance for nature.

To showcase concrete solutions for increasing the alignment of public and private financial flows with nature. Explore the global Nature-Finance Alignment Toolkit being developed by NatureFinance and explore how the TNFD framework is being implemented by companies and financial institutions to disclose their nature related risks and opportunities.

Integrating nature and climate frameworks to unlock private finance

12月14日 12時～1時

How private finance for nature can be unlocked by considering nature alongside net zero in high level foundational policy frameworks through private sector net zero transition planning.

When finance talks nature

12月14日 13時半から14時半

Creating synergies between nature-related taxonomies and scenario analysis for effective environmental policymaking

Nature Positive Pavilionの
ウェブサイトはこちら

<https://www.naturepositive.org/cop15schedule>